

地域医療連携室 だより

Office of Comunity

- 病院長挨拶
- 当院の新型コロナウイルス感染症への対応について
- 就任のご挨拶
- 予約診療科からのメッセージ
- 第16回地域医療連携懇話会開催報告
- 令和2年度実績紹介（入退院等支援部）
- 地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室だよりによせて

奈良県立医科大学附属病院

院長 吉川公彦



奈良県立医科大学附属病院
病院長の吉川公彦です。日頃は
当院地域医療連携室を介した
病病、病診連携にご理解とご協
力を賜り、誠にありがとうございます。

当院は県内唯一の特定機能病
院であり、高度・先進を担う基
幹病院として診療、教育、研究
の充実を図っています。特に高
度放射線治療やIVR（画像下
治療）、ロボット手術、精密治
療としての薬物療法を含めた質
の高いがんゲノム医療を実施す
る体制を推進するとともに、脳
卒中・心筋梗塞・大動脈解離・
急性腹症・糖尿病・精神疾患を

はじめとするあらゆる疾患に高
度で先進的な医療を提供できる
体制づくりを強化しています。

昨今、慢性的な医療従事者の
不足、地域偏在、高齢化社会と
医療費の高騰を受けて、地域医
療構想の実現に向け、医療機関
の機能分担が求められており、
当院は地域医療拠点病院として、
多くの紹介患者さんを受け入れ、
急性期治療後は紹介元の医療機
関あるいは別の機能を有する病
院や診療所への逆紹介を行い、
医療機関の機能分化と、地域完
結型医療の推進に努めています。
さて、今般の新型コロナウイルス
感染症に対応するため、当院

は令和二年四月より奈良県のコ
ロナ重点医療機関として認定さ
れ、令和三年五月一七日現在、
コロナ専用病床八〇床（うち重
症一四床）を運用していますが、
スタッフを確保しコロナ以外の
診療も維持するため、病床稼働
率を六〇%、手術枠を六〇%に
制限しています。初診予約や治
療に関してご不便をおかけする
事がございますが、何卒、ご理
解とご協力をお願い申し上げま
す。

今後も当院地域医療連携室で
は紹介患者さんの受診予約業務、
迅速・詳細な返書作成、かかり
つけ医への逆紹介の推進や連携
登録医制度の充実、患者さんの
診療を計画的に進めるための「
地域連携パス」の運用、「地域
医療連携懇話会」をはじめとす
る医療連携各種委員会の円滑な
運営に努めてまいりますので、
ご理解とご支援、ご協力を賜り
ますよう、宜しくお願い申し上
げます。

当院の新型コロナウイルス感染症への 対応について

感染症センター長 笠原 敬

令和3年5月現在、奈良県は新型コロナウイルス感染症の第4波の真っただ中にいます。全国各地で過去最多の患者数を記録するなか、奈良県でも医療崩壊を起こさないための必死の取り組みが行われています。

当院では新型コロナウイルス感染症患者に対し、重症病床14床を含む計80床を確保し、日夜診療・看護にあたっています。医師については全診療科が主治医として診療にあたり、看護師は重症系病床を中心に応援体制を構築しています。

一方で、新型コロナウイルス感染症以外の医療にしわ寄せが来ている状況で、外来診療や手術、検査など様々な従来医療に制限をかけざるを得ない状況も発生しています。それでも当院でなければできない検査や手術などは引き続き積極的に行っています。



この状況を打開するには、新規感染者数を減らすしかありません。県民の感染予防行動の徹底に加え、ワクチン接種が円滑に進むことも求められています。

県内の様々なところで必死の努力が続けられていることと思います。当院は新型コロナウイルス感染症においても、それ以外の医療においても、最終ディフェンスラインとして、安全で安心できる最善の医療を提供してまいります。



就任のご挨拶

糖尿病・内分泌内科学講座 教授 高橋 裕



令和2年6月1日付で、奈良県立医科大学糖尿病・内分泌内科学講座 教授を拝命いたしました高橋裕と申します。奈良県の現状について、糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医数は極めて少なく、社会のニーズに全く答えられていない状況です。激増する糖尿病はもちろんです。内分泌疾患の中でも電解質異常、甲状腺疾患、骨粗鬆症、副腎偶発腫や原発性アルドステロン症などはコモンディジーズです。

当科の重要なミッションは奈良県におけるこれらの疾患への対応、専門医の育成、県全体の診療レベルの向上のための連携・啓発活動だと存じております。同時に現在の医学の限界を乗り越えるためのPhysicianScientistの育成は日本のサイエンスにとっても喫緊の課題であり、大学から世界に発信する研究を行いながら人材育成に努めて参ります。

講座一丸となって社会に貢献して参る所存ですので、皆様のご指導、ご鞭撻とともにご支援を頂けましたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

小児科学教室 教授 野上 恵嗣

この度、令和3年4月1日付で、前・嶋緑倫教授（現、副学長、医学部長）の後任として、小児科学教室の教授を拝命しました野上恵嗣です。

私は奈良県で生まれ育ち、自治医科大学卒業後、奈良県の医療に深く携わってきました。そして引き続き、小児医療に携われること大変嬉しく思っております。

今、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり医療自体は極めて大変な状況であります。

小児医療においても、今後、変化をもたらすことが考えられます。今後の小児医療の変化やニーズを十分視野に入れながら、未来を担うこどもたちの健康を守り、そして多様なニーズに対応することができる小児科医の育成を行なっていきたいと思います。

加えて、当教室の伝統ある血栓止血学のさらなる発展を目指し、頑張っていきたいと思っております。

現在、すでに新しい体制のもとで船出しました。これからも引き続きのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

がんゲノム・腫瘍内科学講座 教授 武田 真幸

令和3年4月1日付で奈良県立医科大学 がんゲノム・腫瘍内科学講座教授を拝命しました武田真幸と申します。

本講座は、臓器横断的ながん化学療法及びがんゲノム医療推進目的に新規に開設された講座です。私は、平成13年に奈良県立医科大学を卒業後、研修医2年目時に肺癌の新規分子標的薬のイレッサが登場し、従来の殺細胞性抗癌剤とは異なるドラマチックな治療効果に魅了され、がん治療及びがんトランスレーショナル研究に携わりたいと考えるようになりました。

大学院在学中に、国立がん研究センター研究所薬効試験部のリサーチレジデントとして研鑽を積み、固形がん全般の薬物治療、研究を目的に近畿大学医学部腫瘍内科でがんの新薬開発、分子標的薬の感受性・耐性メカニズムの研究等を行って参りました。

また、ゲノム医療の先駆けとして、平成25年度から次世代シーケンサー等を用いた遺伝子解析等の体制整備、トランスレーショナルリサーチを開始しております。

近畿大学に於いて、腫瘍内科医として固形がん全般のがん薬物療法に携わり、またがんゲノム医療を中心的に担ってきた経験・ノウハウを活かし、奈良県立医科大学のがん医療に貢献し、よりよいがん診療を創っていきたいと決意を新たにしております。

ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



がん遺伝子パネル検査外来を開設しました

がんの治療選択肢を拡げることを目的に 「遺伝子パネル検査」を実施しませんか

近年、がん化のメカニズムには遺伝子の変異（変化）が大きく関与していることが分かってきました。

がん関連遺伝子の種類は増えており、直接的にがんの発生や進展に関与する遺伝子を「ドライバー遺伝子」と呼び、最適な治療方針を決定するためには、これらを効率的に検査する必要があります。

従来よりがん遺伝子検査は行われてきましたが、EGFR、HER2、ALK遺伝子検査など1回の検査で1つのがん関連遺伝子を調べるものでした。

しかし、それぞれのがんは遺伝子の変異が多様で、少ない腫瘍組織から1つ1つ調べていくには時間がかかります。それに対し、最近では遺伝子解析を大量かつ高速度で行う「次世代シーケンサー」を取り入れ、1度の検査で複数の遺伝子を包括的に調べることができる「遺伝子パネル検査」が登場しています。

令和元年6月より日常診療で「遺伝子パネル検査」が実施可能になりましたが、「遺伝子パネル検査」を実施する医療機関は、厚生労働省によって定められた「がんゲノム医療中核拠点/拠点/連携病院」に限定されており、奈良県立医科大学附属病院は、がんゲノム医療連携病院に認定されています。

保険適用の対象となるのは、固形がんの中でも、局所進行もしくは転移が認められる患者さんであり、原発不明がん、希少がんなどの一部のがん種を除き、検査を実施できる時期は標準治療終了後、または終了見込みとなった時点になっています。

院外の患者さんの受け入れ体制整備をして参りましたが、令和3年5月より院外の進行固形がん患者さんの「遺伝子パネル検査」を受け入れ可能となりましたのでご報告いたします。

検査を希望される場合は、地域医療連携室を通じてがんゲノム・腫瘍内科にご連絡ください。

当院では、奈良県のがん患者さんを集約化し、ゲノム解析を実施することにより、新たな治療・診断法・新規分子標的薬の開発等に貢献する事を目指し、地域におけるがんゲノム医療を推進していきます。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

[詳しくはこちら](#)

奈良医大 がん遺伝子パネル検査

検索

循環器内科

循環器内科では「断らない」を合い言葉に、全てのスタッフが医療人としての「誇り」をもち、日常診療に携わっております。

令和2年の外来へご紹介いただきました患者数は、実地医家の先生から554名、病院の先生から487名でありました。入院患者数は急性心筋梗塞188例、心臓カテーテルインターベンション403例、不整脈アブレーション162例、ICDやCRT-Dを含む植え込み型デバイスが121例、心不全による入院が130例でありました。

逆紹介率は毎年100%を超えており先生方には大変お世話になっている状況でございます。

また、平成30年4月から経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)を開始し、これまで70例を超える症例を経験しております。

ご多忙の中、多くの患者様をご紹介いただきまして誠にありがとうございます。Covid-19のため入院制限のある現状で必ずしもご期待に沿えない状況も懸念されますが、可能な限り医局員一同努力を続けていく所存です。引き続き、何卒よろしくお願い申し上げます。

腎臓内科

腎臓内科では、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、急速進行性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、薬剤性腎障害など様々な腎障害患者を診療しています。これらの疾患の診断には腎生検が有用で、積極的に腎生検を行い、正確に診断し、適切な治療を行うことを心がけています。

また、高血圧症や糖尿病など生活習慣病に関連した慢性腎臓病（CKD）の診療にも力を入れています。CKDの診療では、外来主治医による診察だけでは十分な説明や患者教育が行えないため、看護師や栄養士など多職種で連携をとり、月に1回、腎臓病教室を行っています。

腎臓病教室では、患者さんとご家族にCKDへの理解を深めていただくことを目的に、腎臓内科医、看護師、栄養士の他、薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカーに加え、循環器内科医、皮膚科医、口腔外科医にも協力してもらっています。

また、多職種連携を強化する目的で、月に2回、多職種カンファレンスを行っています。

呼吸器・アレルギー・血液内科

当科では呼吸器・血液疾患を幅広く診療しております。肺がん・間質性肺炎等の高度な専門知識が必要な疾患や、喘息・COPD・睡眠呼吸障害等のcommon diseaseに対しても、良質な医療を提供し、治療難渋例や増悪時には専門的対応ができるように、気管支鏡検査、呼吸機能検査、呼気中一酸化窒素濃度などの専門的検査を駆使しつつ医局員一同切磋琢磨しております。

血液疾患は造血障害や造血器腫瘍なども含み多彩な症状の患者様を診察することとなり極めて専門性が高い分野です。当院では、急性白血病治療や同種造血幹細胞移植を施行しており、良好な治療成績を収めております。多発性骨髄腫の罹患数も増加しており、治療の進歩により外来患者数も増加の一途をたどっており、スタッフ一同の力を結集して診療にあたっております。

地域医療連携を深化し、県民の皆様寄り添い、一人でも多くの方の助力となれるよう尽力して参る所存です。

消化器・代謝内科

平素から消化器内科の診療活動に御協力を賜りまして、誠に有難うございます。

当科の診療担当は消化器領域ですが、一口に「消化器」といっても、食道・胃・大腸などの消化管疾患から肝胆膵疾患まで、その診療内容は多岐に渡ります。

また、common diseaseから難治症例に至るまで、様々な疾患に対して幅広く積極的に診療に取り組んでおります。一人でも多くの患者さんによりよい医療を受けて頂けるよう心がけておりますので、当科にて御協力させて頂ける症例が御座いましたら、是非とも私どもまで御紹介いただければと存じます。

また消化器疾患は救急症例も多く、「フットワークの軽い診療科」を目指しております。お急ぎの症例につきましては、消化器内科外来あるいは消化器内科当直医までお気軽に御連絡・御相談頂ければと存じます。各施設の先生方とも連携しつつ、医療体制の充実に尽力致しますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

脳神経内科

地域医療機関の先生方には日頃から大変お世話になりありがとうございます。

当院脳神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋肉に関連する疾患を主に診療しています。症状は意識障害、頭痛、めまい、けいれん、物忘れ、複視、構音障害、顔や手足の力が入りにくい、勝手に動く、しびれ、歩行障害など多岐にわたります。当院は特定機能病院であり、診断が難しい症例や高度な治療が必要な症例も積極的に受け入れています。

脳梗塞をはじめとする急性期脳卒中は一刻を争う病態であり、24時間365日体制で当院脳卒中センターにて受け入れています。一方で、パーキンソン病やALS、筋ジストロフィーなどの神経筋難病や、認知症も、専門性をもって対応している疾患です。脳神経内科が扱う疾患はご高齢の方のみならず若年の方も稀ではなく、脳神経内科疾患が疑われる場合は是非ご紹介をお願いします。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

脳神経外科

脳神経外科がカバーする疾患は多岐にわたります。その中でも脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷などが有名である一方、小児疾患、てんかん、脊椎・脊髄疾患を有する患者さんも数多くいらっしゃいます。当科ではこれらすべてを診療できる体制を有しております。令和2年の総手術件数は（コロナ禍において手術制限がかかる中で）706件で、全国の脳神経外科の中でもトップクラスの症例数を誇ります。

脳神経外科救急として、脳卒中の診療体制は重要であると考えています。24時間体制で脳卒中専門医が診療に当たっており、近隣の病院からの受け入れ態勢も充実しています。脳卒中診療では時間との戦いになりますので、脳卒中の疑われる患者さんについては遠慮なくご連絡ください。

脳腫瘍については手術のみならず、後療法としての化学療法および放射線療法を含め包括的かつ集学的治療を関係各科との協力のもと実施しています。神経内視鏡手術など低侵襲な治療にも取り組んでいます。

高齢化社会が進むにつれて変性疾患である脊椎病変は増加傾向にあります。当科では患者様の病態に最も適した方法で手術を施行しております。

小児脳神経外科領域およびてんかんの外科治療は県内で唯一当科のみで施行可能です。専門的知識の要求される領域であり手術適応の判断が難しい症例も多くあります。当科ではすべての手術症例に対して毎週行っているカンファレンスにて全員で治療方針を検討しています。ガイドラインに基づく標準治療と大学病院ならではの先端治療の良いところを組み合わせた治療を、患者さんそれぞれにオーダーメイド的に提案しています。患者さんご家族に納得いただける治療を目指すため、今後もアクティブな診療を進めていきます。

消化器外科・小児外科

消化器外科・小児外科では、消化器がんや炎症性疾患をはじめ、多岐にわたる疾患を対象としています。

外科治療では、最新の内視鏡下およびロボット支援下手術等の低侵襲手術を積極的に導入、展開しています。また癌治療におきましては、血管合併切除や他臓器合併切除などの根治性の追求も行っています。

患者さんの予後やQOLの向上と改善を最大の目標として、術前後の化学療法や放射線治療を含む最新・最善の集学的治療を推進しています。

いずれの治療も関係診療各科、専門部署と緊密な連携をとりながら、診断から治療までを迅速かつ効率的に実施できるようにチーム医療を実践していきます。また、国内外の様々な治験や臨床試験にも積極的に参画し、最先端治療の導入を心がけています。

今後も、ご紹介いただく先生方とのコミュニケーションや連携を大切に、患者さん一人お一人に満足していただける治療を目指して、診療科一丸となり日々尽力して参ります。

心臓血管外科

平素より多くの貴重な症例をご紹介いただき、誠にありがとうございます。

当科では先天性心疾患、成人心疾患、血管疾患と疾患は多岐にわたります。先天性心疾患は先天性心疾患センター、小児科、NICUと連携し未熟児を含む新生児に対しても積極的に根治手術を行っております。成人心疾患、血管疾患においては超高齢化社会となり、従来の手術が困難であった患者さんにも、カテーテルによる弁置換術やステントグラフト内挿術などの低侵襲治療を循環器内科、放射線科と協議し対応できるようにしております。また、重症下肢虚血に対しても放射線科と協力し血行再建を行うことで切断回避に努力しております。

心筋梗塞、急性大動脈解離などの緊急疾患に対しても24時間体制で緊急手術を受け入れておりますので、遠慮なくご連絡ください。

今後も県内における中核病院として、質の高い医療をご提供できるように努力致しますので、よろしくお願いいたします。

整形外科

平素は当科の診療活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。整形外科について紹介させていただきます。

診療内容：

整形外科は運動器全般の保存治療と手術治療を行う診療科ですが、大きく分けて関節外科、脊椎外科、外傷外科に分かれます。奈良医大では部位別に脊椎・脊髄、肩関節、肘関節、手、股関節、膝関節、足の診療班、ならびに横断的なものとして骨軟部腫瘍、外傷、マイクロサージェリー、スポーツ医学、リウマチ、小児整形外科、リハビリテーションといった分野の診療班が治療を行っています。

今後数年でピークを迎えると言われている、超高齢社会における、『健康寿命』を延ばす診療を今後も行なっていけるよう、教室員一同邁進してまいります。そのためには、近隣の諸先生方や連携病院との体制づくりが重要と考えております。これからも、当科の診療活動にご理解、ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

歯科口腔外科

口腔外科は、口腔、顎、顔面ならびにその隣接組織に生じる病気や異常を総合的に扱う診療科です。この領域は、咀嚼、嚥下、構音、整容、呼吸などの社会生活に欠かせない機能を担っており、非常に重要な器官です。病気を治すだけでなく、その機能の向上と回復をめざし、患者さんが十分に納得され、信頼される治療が受けられるよう、臨床に研究に日々邁進しています。奈良県の中核病院としての自覚と使命を認識し、誠実で安心な医療を提供できるよう心がけております。口腔顎顔面全般にわたる多種多様な疾患に積極的に取り組んでいます。

取り扱い疾患：

口腔癌、各種口腔腫瘍、口腔顎顔面外傷、上下顎骨折、顎骨嚢胞、口腔顎顔面再建、唇顎口蓋裂、顎変形症・顎骨延長、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、顎顔面口腔インプラント、血液疾患・感染症者の口腔管理、歯性感染症、口腔乾燥症、歯顎矯正・顎口腔機能障害などです。

皆様のご紹介とご協力をよろしくお願い申し上げます。

産婦人科

当科における診療は、周産期部門（産科）と婦人科部門に分かれております。周産期部門では、総合周産期母子医療センターとして、母体・胎児合併症に対して24時間対応できる体制をとり、出産後の新生児管理・治療につなげています。また、母体血を用いて胎児の染色体を調べる出生前の遺伝学的検査（NIPT）や胎児の超音波検査にも力を入れております。

婦人科部門においては、都道府県がん診療連携拠点病院として、婦人科癌の診療に力を入れております。とくに低侵襲手術である腹腔鏡下手術やロボット支援下手術を積極的に行い、本邦で実施が許可されている婦人科癌の低侵襲手術のすべてが実施可能です。骨盤臓器脱に対するロボット支援下の仙骨腔固定術も行っております。

また、令和3年4月から若年女性や更年期女性などに対するヘルスケア専門外来（火曜日）も新たに設置いたしましたので、多くの患者様をご紹介いただきますようお願い申し上げます。

小児科

平素は当科の診療活動にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

当院小児科では、血液（血友病などの凝固異常症）、腫瘍（血液・固形）、循環器（先天性心疾患など）、神経（てんかん、神経筋疾患など）、腎臓、膠原病、感染症、内分泌・栄養を重点的専門領域としています。

平成23年に小児センターが開設され、現在は奈良県下唯一の24時間体制で高度小児医療を実践する施設として機能しています。

また、新生児集中治療部では、県下唯一の総合周産期母子医療センター認可施設で、ハイリスク新生児（超低出生体重児、小児外科疾患、先天性心疾患など）の診療を行っています。

さらに小児救急医療では救急科や麻酔科・ICUと連携して3次救急医療施設としての役割も担っています。

また、多数の関連病院と連携して奈良県下や大阪地区の地域小児医療にも貢献しています。これからも奈良県の中核病院として、地域の先生方と連携しながら、小児医療体制に貢献できればと思います。

当科の診療活動にご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

新生児・発達外来

総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門は、新生児集中治療室（NICU21床）と新生児治療回復室（GCU30床）から構成されます。

NICUは、母体搬送後に出生した児や、新生児搬送で入院した早産児をはじめ病気をもつ全ての赤ちゃんの治療を、新生児専門医を中心に、小児外科、脳外科、泌尿器科、心臓血管外科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科等の小児専門医と協力して治療を行う県内で唯一の施設です。

薬剤師による薬剤指導や遺伝性疾患では、臨床遺伝専門医が遺伝相談を含めた診療も行います。

GCUは母乳栄養を支援のため、病棟内に2か所の授乳室を設け、助産師による母乳支援を行います。在宅医療を必要とする児は、院外のスタッフと退院前カンファランスを主催し、地域での支援体制を調整し家族の不安と負担軽減に努めています。退院後は新生児科医師による新生児外来を毎日午前と午後予約制で行い児の健やかな発達を支援しています。

眼科

外から得られる情報の8割は目から得られると言われており、QOLに視機能は大きく関わっています。視力が低下すると運転などの日常生活に支障をきたすだけでなく、運動機能が低下しフレイル、要介護のリスクが高まり、さらに認知症のリスクも高くなります。

白内障など一般眼科はもちろん、角膜疾患、緑内障、ぶどう膜炎、涙道・眼窩疾患、小児眼科疾患（斜視、弱視、先天白内障）、網膜疾患など様々な疾患に十分対応できるよう最新の検査機器を使用し総合的な診療を行っています。

特に専門的治療を要する緑内障に加え、加齢性黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔などの網膜硝子体疾患に対しては手術を含め最先端の治療を行っています。

地域医療連携室の予約は月曜日が6名、火・木曜日が8名、水・金曜日は5名の枠を設けております。地域医療に貢献した診療を行ってまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

耳鼻咽喉・頭頸部外科

当科では伝統的にめまい・難聴に力を入れる一方、頭頸部癌への対応を充実させています。大阪国際がんセンター、大阪府立急性期総合医療センター、愛知県がんセンター、国立がんセンターから帰学した癌専門医が、頭頸部腫瘍外科、頭頸部腫瘍内科として活躍しています。さらに、鼻副鼻腔・アレルギー、嗅覚・味覚、音声・嚥下にも焦点を当てています。

実際の専門外来は、①めまいセンター外来、②頭頸部外科マスター外来、③スポーツ平衡外来、④難聴・補聴外来、⑤耳鳴・補聴外来、⑥小児難聴外来、⑦顔面神経外来、⑧鼻副鼻腔・アレルギー外来、⑨頭頸部腫瘍外来、⑩音声外来に分かれています。

初診患者さんは、地域医療連携室を通じて予約を取っていただき、初診日に初診担当医の診察をお受けください。詳しくは下記URLをご確認ください。

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科
公式ホームページ

<http://www.naramed-u.ac.jp/~oto/>

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科
公式フェイスブック

<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed>

皮膚科

当科は中核医療施設として有する機能を有効活用するために、専門性の高い医療を必要とする患者さんや入院加療が望ましい患者さんを中心に診療を行っています。

特に、スティーヴンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症といった重症薬疹、天疱瘡や類天疱瘡などの自己免疫性水疱症、全身性エリテマトーデスや皮膚筋炎、血管炎などの皮膚科に関連する膠原病そして表皮水疱症や魚鱗癬といった遺伝性皮膚疾患に対して、それぞれ専門スキルを持つ医師が専門的で高度な医療を提供しています。

また、総合病院として、内科と緊密に連携を取りながら行う必要がある生物学的製剤を用いた治療も積極的に行っています。皮膚科クリニックで診断が困難な症例や皮膚腫瘍について、病理検査や皮膚エコー検査などを施行し、確定診断を行っています。

地域の医療機関と密接な連携のもと、地域の患者さんに必要な医療を継続して提供するために地域医療連携を推進致します。

泌尿器科

泌尿器科の特色は、膀胱など尿路上皮癌の光力学診断、前立腺癌の小線源治療や各種放射線治療（前立腺小線源治療講座との協同診療）、さらにロボット支援や内視鏡手術など、根治性の高い低侵襲治療を泌尿器腫瘍領域で推進しています。

進行癌や肉腫も、外科治療に併せて化学療法、分子標的治療、免疫療法、放射線治療による多様な集学的治療を行っています。

排尿障害では、男性の前立腺肥大症と女性の尿失禁・骨盤臓器脱に対する外科治療、難治性の過活動膀胱や夜間頻尿の学術的な診療、さらに神経因性膀胱など専門診療も行っています。

腎不全領域では、透析医療の管理と腎移植の推進を行っています。小児患者に対しては、専門医による腹腔鏡手術や高度な尿路形成術など診療の充実を図っています。

医局員一同、奈良県から世界の医療の発展に貢献し、世代を超えて皆が安心して質の高い医療を受けられるよう、学術的で明るく誠実な診療姿勢を堅持しています。

精神科

当院精神科は、「特定機能病院としての精神科」、「県の精神医療の中核としての精神医療センター」という二つの重要な精神医療を担っています。

このため小児期から思春期、成人期、老年期に至る幅広い精神疾患を対象とし、精神科救急医療をはじめ、妊産婦、要透析・要手術患者などの身体合併症精神疾患の積極的な受け入れにとどまらず、地域移行支援、あるいは精神科リハビリテーションにも注力し、地域での高度かつ包括的な精神科医療を提供しております。

また、併設の認知症疾患医療センターでは、高度な鑑別を必要とする認知症診断と治療を行っています。

当科は地域における「開かれた精神医療」を展開することをモットーとしておりますので、気軽にご相談いただけましたら幸いです。

なお、子どものこころの問題など特殊な事例に限っては診察曜日に指定がございますので、紹介の際には病院ホームページ等をご参照頂きますようお願い申し上げます。

放射線・核医学科、IVRセンター

種々のIVR(画像下治療)の適応患者さんのご紹介をお待ちしております。

1. 肝細胞癌、転移性肝がん
(肝動脈化学塞栓療法、動注化学療法)
2. 胸部・腹部大動脈瘤
(ステントグラフト内挿術)
3. 閉塞性動脈硬化症(血管拡張術)
4. 子宮筋腫(UAE)
5. 肩・膝・肘関節などの慢性疼痛
(モヤモヤ血管塞栓術)
6. 内臓動脈瘤(コイル塞栓術)
7. 血管奇形(血管塞栓術)
8. 悪性腫瘍の骨転移による疼痛
(ラジオ波凝固療法・血管塞栓術)
9. その他、様々なIVR(画像下治療)のご相談

また、当院IVRセンターでは外来中心静脈ポート留置も承っております
医療機関からのご相談はメールやお電話でも結構です。
rad@naramed-u.ac.jp(放射線診断・IVR学教室)
0744-29-8900(教室直通)
ホームページ「奈良医大放射線」で検索
<https://www.nara-radiology.com/>

放射線治療科

平素は当科の診療にご協力いただき誠にありがとうございます。

放射線治療は最先端の“切らずになおすがん治療”です。手術と同等の効果が得られるがんもあり、なおすことを目的とした根治的治療、手術前後の補助的治療、痛みや苦痛を軽減する緩和治療等に、各診療科と連携して幅広く対応しています。

全身のがんに対する高精度放射線治療が可能な3台の最新型リニアックでは、がんの形状に正確に対応する強度変調放射線治療、定位放射線治療、がんの位置に正確に合わせる画像誘導放射線治療が可能です。さらに子宮がん、前立腺がんの局所治療用の高線量率小線源治療装置、前立腺がんのヨウ素永久挿入小線源治療装置も稼働しています。

毎日、多数の症例を治療していますが、大部分は他の診療科や他の医療機関からご紹介いただいた患者さんです。地域との連携が非常に重要ですので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

麻酔科

当科では、様々な疾患の疼痛治療を行っています。主な対象疾患は、脊椎疾患、带状疱疹関連の痛み、頭痛などですが、難治性の慢性疼痛も診察しています。

X線透視下でのブロック治療を得意として、年間2,800件行っています。また脊髄刺激療法や硬膜外腔癒着剥離術などの小手術も施行します。ブロック治療の適応のない患者さんにも、内服などの様々な保存的な治療を試みます。

完全予約制ですので、地域医療連携室でご予約下さい。

発症早期の带状疱疹痛や脳脊髄液漏出症でお困りの症例などは、直接ペインセンターまでお電話いただければ対応いたしますので、よろしくお願いします。



総合診療科

どこにかかったらいいかわからない時や、原因不明の病気や複数の病気にかかっておられる時に受診していただく事が多い科です。そのような複雑な病態で診断がつかないような時にも、安心と納得を感じていただける様な医療を提供することを目指しております。コロナの情勢もあり、ご満足のいく対応は出来ないかもしれませんが、患者さんの急な変化に対してのご相談がございましたら総合診療科にご連絡いただけたらと思います

(総合診療科直通PHS 070-6610-2152 平日の20時まで) よろしくお願いたします。

複雑な病態の原因は膠原病や悪性腫瘍であることも多く、リウマチセンターからの入院は全て当科で担当しておりましたので、この10年間多くの重症の膠原病の入院患者を診てまいりました。今回令和3年4月より、リウマチ外来の中で、膠原病に関しましては、当科が主体で診させていただくこととなりました。そのためご紹介はリウマチ外来宛でありましても、当科で診させていただく場合が多くなっておりますので、ご理解よろしくお願申し上げます。

感染制御内科

感染制御内科では特定の臓器に偏らず、感染症全般の予防、診断、治療を行っています。特に診断や治療に難渋する事例では、他の診療科と連携しながら対応いたします。

外来診療では一般感染症外来に加えてHIV/AIDS外来や寄生虫外来、海外渡航者外来やワクチン外来など専門外来も行っています。

入院が必要な患者さんに対しては当科の入院病床がございますので可能な限り対応いたします。

その他に耐性菌対策や抗菌薬の適正使用にも力を入れておりますので、ご質問などがありましたらお気軽にお問い合わせください。

感染症の予防や診療は地域が一体になって取り組む必要があります。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

詳しくは当科ホームページをご覧ください
(<https://www.naramed-u.ac.jp/cid/>)

呼吸器外科

奈良県立医科大学呼吸器外科は、

1. 良質で安全確実な診療
2. 患者さんに安心を与える医療人の育成
3. 質の高い研究を目標に励んでいます。

大学病院であることを生かし、呼吸器内科、放射線科、病理診断科などの関連各科と定期的にカンファレンスを行い、質の高い集学的診断・治療を行っています。また、高齢化社会に対応すべく、慎重な社会的・身体的検討を基に低侵襲手術から拡大手術まで、あらゆる診療に対応しています。

対象疾患

1. 肺悪性疾患：1) 原発性肺癌、2) 転移性肺腫瘍 など
2. 炎症性疾患：1) 非結核性抗酸菌症、2) 膿胸、3) 肺真菌症など
3. 縦隔腫瘍/胸壁腫瘍：1) 前縦隔腫瘍(胸腺腫/胸腺癌など)
2) 中縦隔腫瘍
(嚢胞性疾患：気管支原性嚢胞、心膜嚢胞など)
3) 後縦隔腫瘍(神経原性腫瘍など)
4. 気胸・嚢胞性肺疾患：1) 気胸、2) 気腫性肺嚢胞
(巨大ブラ) など
5. その他

腫瘍内科

当科は、令和3年4月1日付で臓器横断的ながん化学療法及びがんゲノム医療推進目的に新規に開設された診療科になります。腫瘍内科はがん診療に特化した内科の一分野です。

腫瘍内科はがんの診断、がん薬物療法（抗がん剤治療、免疫チェックポイント阻害剤など）、痛みを始めとした様々な辛さや問題を和らげるサポート（緩和ケア）、複数の治療（手術、放射線治療、薬物療法など）から最適な組み合わせを考えるために各診療科の橋渡し役になるなど多岐に渡ります。

奈良県は、がん薬物療法を担うがん薬物療法専門医数が他の都道府県と比較し、少ない現状があり、医学生や若手医師が腫瘍内科を志望するような環境・基盤を整備し、若手医師の育成を注力したいと考えております。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

乳腺外科

近年、乳癌の増加は著しく、日本人女性の9人に1人が乳癌に罹患するといわれています。乳癌は、早期に治療できれば、完治できる可能性が高い癌であり、乳腺専門施設と一般医療機関との連携は非常に重要です。

また、最近の乳癌臨床の進歩は顕著であり、特に薬物治療においては、新規の薬剤導入が非常に勢いで進み、複雑化していることから、その診断及び治療には専門性の高い医療がより一層求められています。当院では、平成30年11月に乳腺センターが開設されました。現在、3名の常勤医師と2名の非常勤医師が診療にあたっています。主に乳癌を対象とし、整容性と根治性のバランスを重視した最善の外科治療のほか、最先端の内分泌療法・分子標的治療・免疫化学療法等を他職種と連携しつつ積極的に実施しています。

患者さんの予後およびQOL改善を目指して、大学病院、地域の基幹病院としての務めを果たすべく、スタッフ一同、日々努力を重ねて参ります。

糖尿病・内分泌内科

奈良県立医科大学附属病院では、それまで寄付講座だった糖尿病内科と内分泌内科が合併し、令和2年6月1日より糖尿病・内分泌内科として診療を行っています。奈良県の現状について、糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医数は極めて少なく、社会のニーズに全く答えられていない状況です。激増する糖尿病はもちろんですが、内分泌疾患の中でも電解質異常、甲状腺疾患、骨粗鬆症、医原性副腎不全、副腎偶発腫や原発性アルドステロン症などはコモディティーズです。

また下垂体・副腎疾患の一部などは高い専門性が必要で指定難病に含まれているものもまれではありません。糖尿病・内分泌疾患はすぐに命に関わるものは少ないのですが、適切に診断・治療が行われないと深刻な合併症をきたしたり、QOLが大きく損なわれることが多いので注意が必要です。

当科の重要なミッションは奈良県におけるこれらの疾患への対応、専門医の育成、県全体の診療レベルの向上のための連携・啓発活動だと存じております。

地域医療に従事されている先生方におかれましては、お気軽にご紹介、ご相談を頂けましたら幸いです。

形成外科

眼瞼を含む顔面異常、顔面骨骨折、皮膚良性・悪性腫瘍切除後の再建、癍痕拘縮、乳房再建、頭頸部腫瘍切除後の再建などの治療を日常的に行っております。

地域医療連携室初診紹介患者予約枠として、全て午前中となりますが、月曜日5枠、火曜日2枠、水曜日2枠、金曜日2枠にて対応させていただいております。木曜日は主に手術日として活動しております。外来窓口は皮膚科と協同となっています。受診時は窓口で形成外科受診に来たと告げていただくと幸いです。形成外科にご紹介いただいている場合でも、悪性腫瘍が疑わしい場合や、診断までの精査が必要な場合などは、まず皮膚科の受診をお願いすることがございます。

また形成外科の診療室以外に、皮膚科外来のそのとき空いているスペースや、狭いスペースを工夫して診療させていただいております。

よろしくお願い致します。

玉井進記念四肢外傷センター

玉井進記念四肢外傷センターは、整形外科名誉教授の玉井進先生が世界で初めてマイクロサージャリーによる切断指再接着術に成功された業績から50周年を記念して、平成28年1月に開設されました。

当センターでは顕微鏡下に組織を修復するマイクロサージャリーを得意としています。マイクロサージャリーにより切断された指の再接着が可能になるだけでなく、損傷した末梢神経の修復、麻痺した筋肉の回復、外傷などで失われた四肢の部分欠損の再建も可能になっています。また、骨折後の骨髄炎や偽関節の治療にもマイクロサージャリーを用いることで良好な治療成績が得られています。

奈良県における中核病院、特定機能病院として、市中病院では治療が難しい四肢外傷症例に対して質の高い医療を提供し、患者さんの機能回復、QOL向上に努めてまいります。当センターの診療活動に引き続きご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。

めまいセンター

「めまい」は病院に来られる患者さんの最もポピュラーな訴えの一つです。当センターでは、奈良県内外からのめまい患者さんを一手に引き受け、耳鼻咽喉科医師が中心となり、脳神経内科、脳神経外科等の周辺科と協力して診断と治療にあたっています。検査に関しては、専属の言語聴覚士、臨床検査技師が中心となり、正確な技術で丁寧な対応を実践しています。めまいのみならず耳鳴や難聴も診察していますので、併せて紹介をお受けします。

当センターは完全予約制です。外来診察を希望される場合、お近くの診療所の医師に紹介状を用意していただき、地域医療連携室を通してご予約ください。

さらに、めまい患者さんに短期入院検査を実施するか否かは、当センターにおける外来診察の際に医師が判断します。詳しくは下記URLをご確認ください。

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学

公式ホームページ

<http://www.naramed-u.ac.jp/~oto/>

公式フェイスブック

<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed>

標榜診療科名の変更について

令和3年4月1日より、リウマチセンターが
「リウマチ外来」
に変更になりました。

診療は整形外科・総合診療科・腎臓内科（水曜日のみ）
で行っており、**リウマチ疾患（内科系）の初診は**
総合診療科（2階）で行っております。

何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。



受付

開催報告

初！WEB開催 第一六回地域医療連携懇話会

令和三年三月十八日（木）
「第一六回地域医療連携懇話会」を開催しました。

今回は感染症対策のため、Zoomウェビナーを使用した、初めてのオンライン開催となりました。

当日はサテライト会場も設け、ライブで参加いただけるようにもしました。



▼配信会場の様子



▲サテライト会場の様子

感染症拡大防止のため延期となっていた第一五回で講演いただく予定だった「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」の実践と課題」を奈良県医師会安東範明副会長から、そして「新型コロナウイルスのこれまでとこれから」を当院感染症センター・笠原敬センター長にご講演いただきました。

当日は病院、診療所の医師や看護師、社会福祉士、事務職さらに介護や訪問看護など様々な職種計一〇六名にご参加いただき、質疑応答はチャットを活用して行われました。

開催後に実施したアンケートでは、「今後、ACPをどのように医療に取り込んでいくのか、患者にとっても重要なことです。が、難しい課題だと思います。」
「奈良県のコロナ対策の現状が見える化されていてよかった。また医療関係者のこれまでのご苦労に感謝いたします。」といったご意見やご感想をいただきました。現在のコロナ禍の状況だからこそできた新たな懇話会のかたちを実感しました。

ご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

プログラム

■ 院長挨拶



吉川院長

■ 講演Ⅰ

「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の実践と課題」

一般社団法人奈良県医師会 副会長 安東 範明



安東先生

■ 講演Ⅱ

「新型コロナウイルスのこれまでとこれから」

奈良県立医科大学附属病院
感染症センター長 笠原 敬



笠原先生

● 座長

奈良県立医科大学附属病院
地域医療連携室長 吉治 仁志



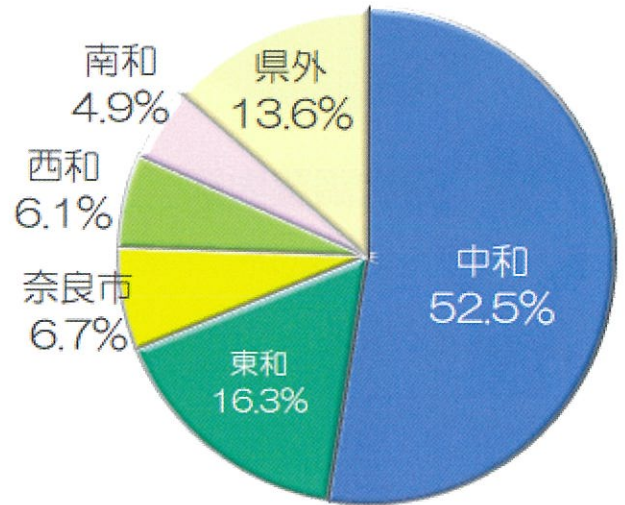
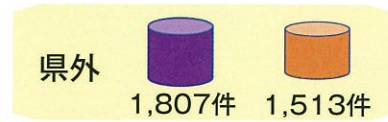
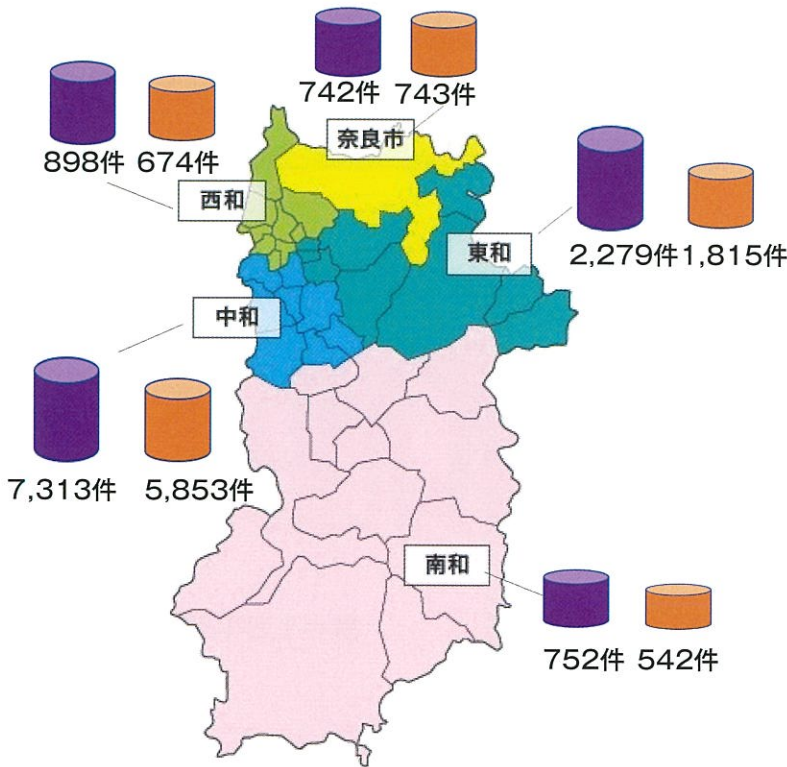
吉治室長

令和2年度 実績紹介（入退院等支援部）

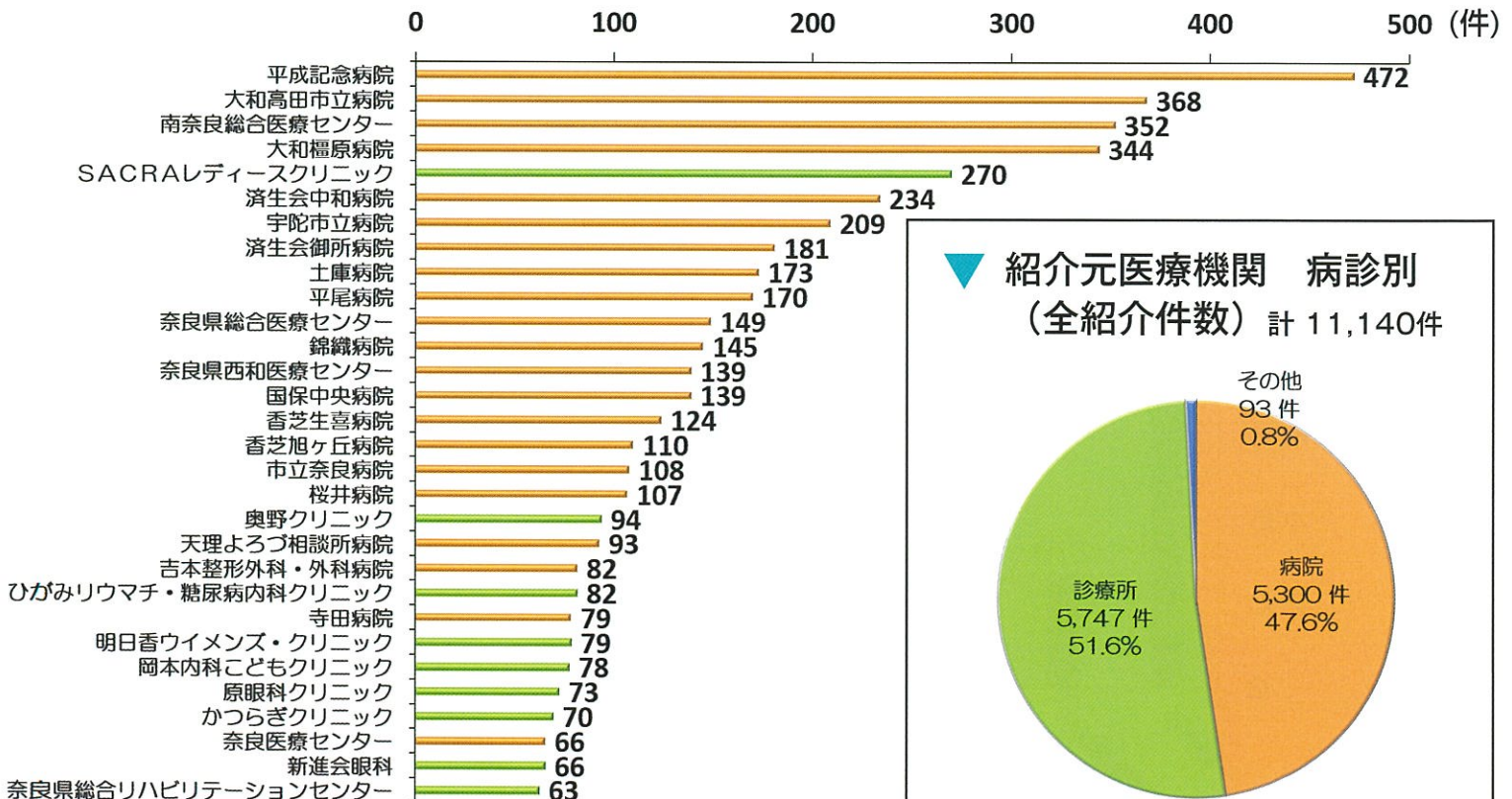
初診紹介患者予約実績

初診紹介患者予約システム利用状況 計 11,140件

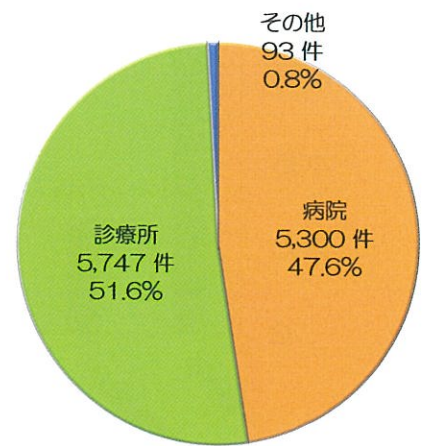
紹介元医療機関 医療圏別



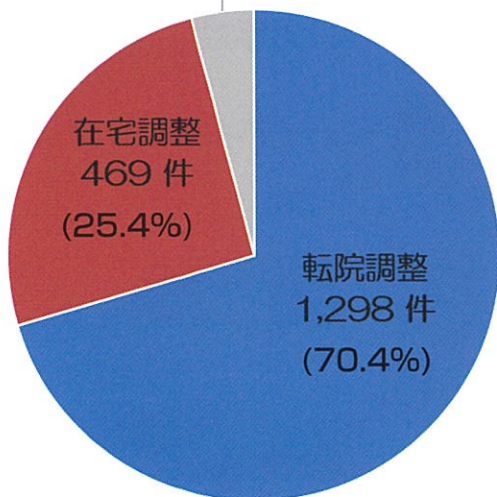
紹介元医療機関 上位30医療機関



紹介元医療機関 病診別 (全紹介件数) 計 11,140件



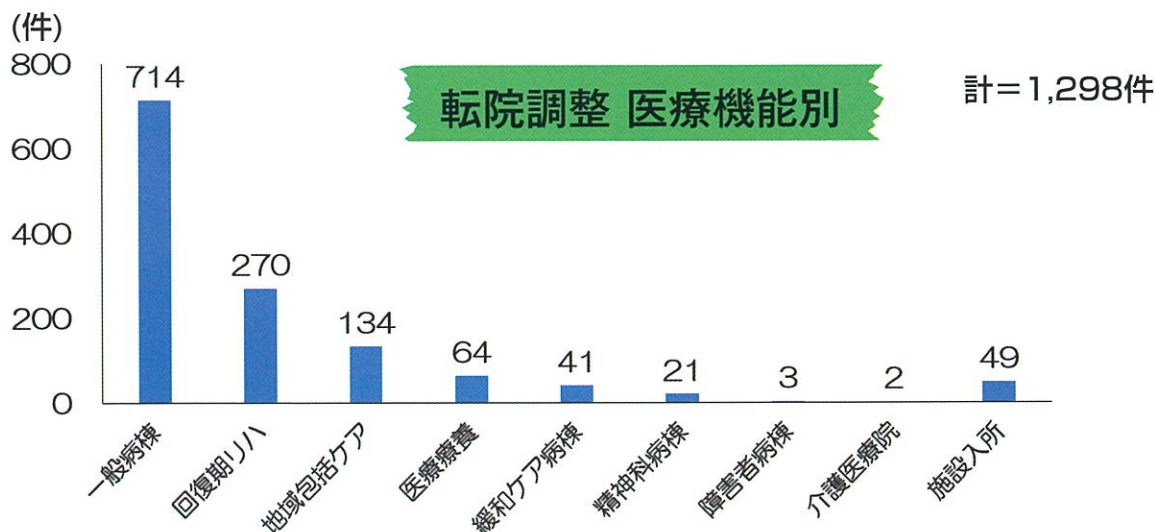
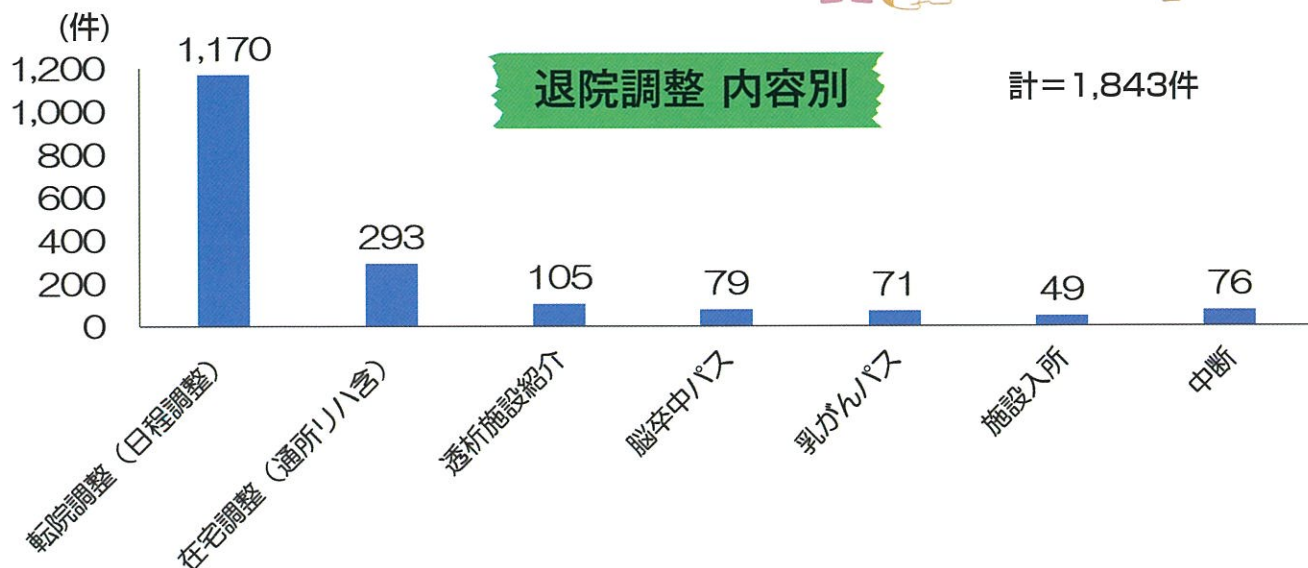
中断（死亡退院を含む） 計=1,843件
76件 (4.1%)



- ・在宅調整：在宅調整（通所リハを含む）
透析施設紹介
乳がんパス
- ・転院調整：転院調整（日程調整）
奈良県脳卒中地域連携パス
施設入所



退院調整内訳



地域医療連携室からのお知らせ

ご紹介の際は事前予約をお願いいたします

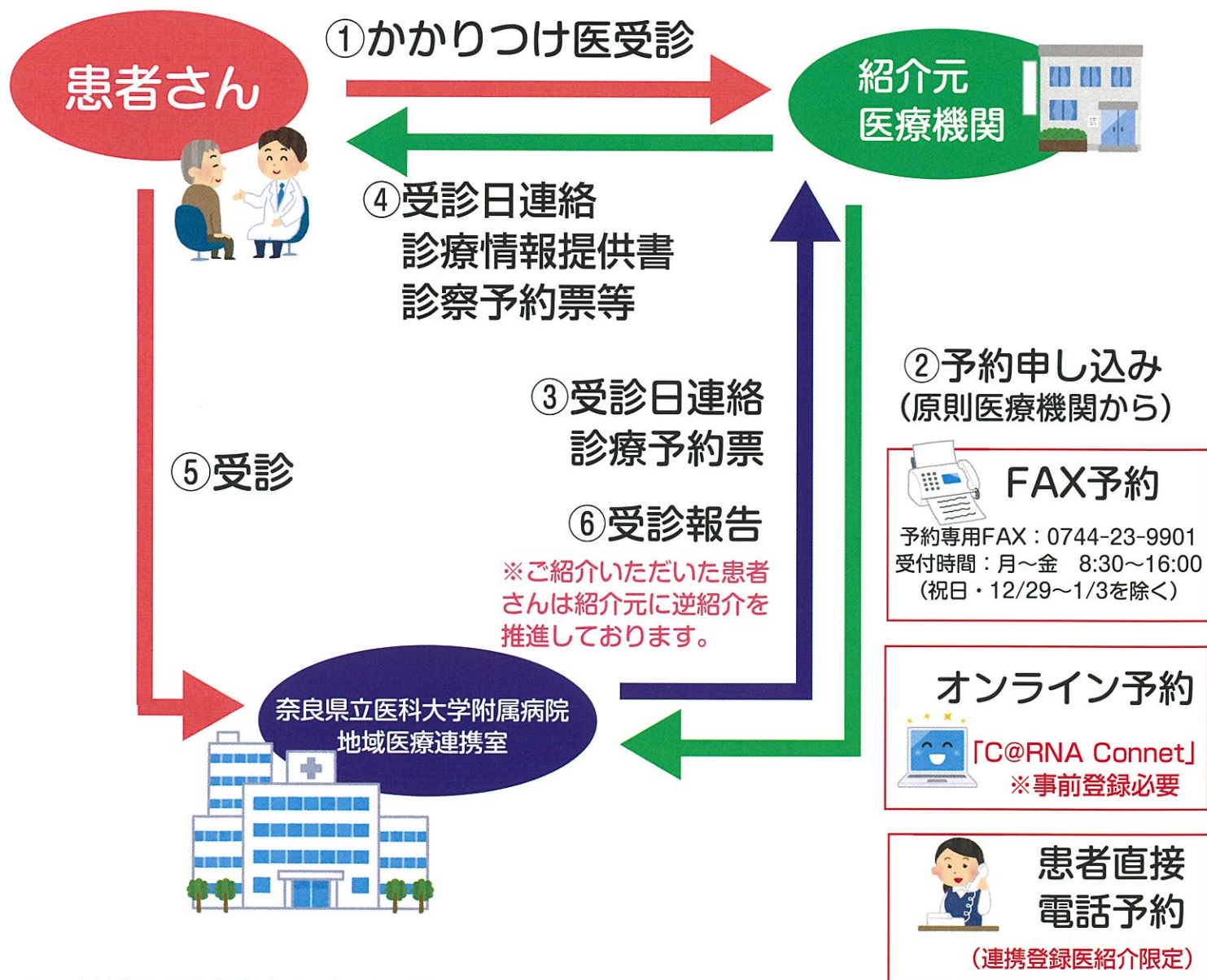
当院では、患者サービスの質向上のために初診患者さんの予約診療としております。紹介や事前の予約なしで受診される患者さんがおられますが、予約システムを活用することで、

- ・ 目的に合った専門医の診察を受けることができる
- ・ 診察に必要な事務手続きが簡略化される
- ・ 予約取得することで、待ち時間が短縮される

…などのメリットがあります。

大切な紹介患者さんの初診時の待ち時間短縮はもとより、受診患者全体の待ち時間緩和にもなります。

初診紹介患者さんの予約診療の流れ





FAX

予約専用FAX：0744-23-9901
 受付時間：月～金 8:30～16:00
 (祝日・12/29～1/3を除く)

- ①貴院より、当院専用の「診療情報提供書（兼）予約診療登録票」に必要事項を記入し、予約専用番号にFAXしてください。
- ②地域医療連携室より、予約日時を調整後「診察予約票」をFAXにて返信いたします。
※概ね15分程度いただきます
- ③患者さんに「診療情報提供書」「診察予約票」「検査・画像データ（必要に応じ）」を持参させてください。

オンライン

24時間365日予約可能です！

「C@RNA Connect」のユーザー登録はお済みですか？
 オンライン登録しておくこんなメリットが！

こんなお困りはないですか？

- ・夜間診療の時間帯だと予約手続きができない
- ・予約票を取りに患者さんに改めて来院してもらわないといけない

オンライン予約なら……

- ・患者さんとその場で予約が取れる日時が確認できます
- ・患者情報・診療情報を入力することで診療情報提供書として活用できます
- ・予約時の書類FAXの手間が省けます



令和3年5月現在、県内外を含め95施設のクリニックにご利用いただいております。
 コロナ禍でオンラインの需要が高まっているこの機会に、ぜひ新規ユーザー登録をご検討ください。

登録方法は <https://www.narmed-u.ac.jp/~chiiki/yoyakuhouhou.html>
 をご覧いただくか、地域医療連携室まで直接お問い合わせください。

電話

患者さんからの直接電話で
 都合のよい日時をご予約できます

※連携登録医の先生方からの紹介患者さんに限ります

登録医の先生方に、あらかじめ専用の予約票と予約専用ダイヤルの電話番号を送付させていただいております。

患者さんより直接、予約専用ダイヤルにお電話いただき、予約を取得していただけます。

当院でのカルテ作成や紹介状のスキャンなどの準備のため、登録医の先生方には、予約日までに診療情報提供書をFAXで地域医療連携室にお送りいただきます。



返書管理に取り組んでいます！

令和元年度は紹介患者さんの約20%が未返書で、紹介元医療機関の先生方から「患者さんの受診後の経過報告がない」とご指摘をうけることがありました。

この状況を鑑み、令和2年度は各診療科と地域医療連携室とが連携し返書管理に取り組みました。

電子カルテの画面上で返書状況が確認できるシステムを活用し、各診療科は受診日から1カ月以内の返書の完了を徹底しました。また、地域医療連携室では定期的に返書状況を確認し、診療科や担当医と状況を確認するとともに、毎月全診療科の返書状況を可視化し、院内会議等を通じて情報を共有してまいりました。

今後も取り組みを継続してまいりますので、お気づきの点がございましたら該当診療科または地域医療連携室までご連絡ください。

連携登録医制度を推進しています

令和3年5月現在、連携登録医として381名の先生方に登録いただいています。

連携登録医の先生方は

- ・患者さんからの直接予約の利用
- ・連携登録医のつどいへの参加
- ・紹介患者さんのカルテ閲覧・患者訪問
- …などが可能です！

新規登録・ご利用方法については当院の地域医療連携室のホームページをご覧ください。地域医療連携室まで直接お問い合わせください。

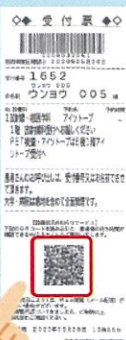
INFORMATION

お手持ちのスマートフォンで、QRコードを読み取ることにより
診察待ち、会計計算やお薬の準備状況を確認できるようになりました

詳細は、各科窓口にあるチラシをご確認いただくか、各カウンターまでお問い合わせ
ください ※通信料は患者さんのご負担となります

診察待ちの状況

再診受付機の票



QRコードは
こちら！



メールでお知らせ
WEB確認

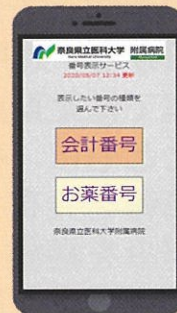


会計計算・お薬の準備状況

3番会計窓口の票



QRコードは
こちら！



会計番号
をタッチ



お薬番号
をタッチ



新型コロナウイルス感染防止対策として 面会制限をさらに強化しています

- ・面会の禁止を徹底し、原則、病状説明、手術当日など当院からの要請や特定の理由
についてののみ訪問を許可する。
- ・入院患者さんへの訪問は、**訪問許可書を携帯した1名のみ**とし、**時間は5分まで**
とする。
- ・訪問時間は **午後3時から午後7時まで** とする。
- ・当院から来院を要請した場合は、上限2名までとし、臨時許可書を発行する。
療養生活に必要な物を届ける場合であっても **週2回程度まで** とする。

状況をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。



訪問許可証

奈良県立医科大学
附属病院

奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840
TEL:0744-22-3051(代)/0744-29-8022(直通) FAX:0744-23-9923

編集・発行 奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室

URL <https://www.narmed-u.ac.jp/~chiiki/> 発行/2021年6月